

第4章

学識経験者の意見

1 学識経験者 ※50音順 敬称略

石垣 正純 弁護士

大野 英彦 千葉大学教育学部特任教授

三幣 利夫 千葉敬愛学園理事長

富田 勇人 千葉県PTA連絡協議会会長

2 学識経験者からの意見聴取（ヒアリング）

（1）実施日

令和7年7月10日（木）・11日（金）・15日（火）

（2）概要

教育に関し学識経験を有する方の知見を活用し、客観的な評価を行うことを目的として、学識経験者に対し意見聴取（ヒアリング）を実施し、教育委員の活動全般や、第3期千葉県教育振興基本計画の進捗状況等について御意見をいただきました。

各章の内容について頂いた御意見を次ページから記載いたします。

【第2章 教育委員の活動】について

2 千葉県総合教育会議

- ・県立高校の今後のあるべき姿について協議されることを期待したい。
- ・総合教育会議の講演で「日本語を母語としない子どもの居場所と学び・学校との連携」をテーマに専門家を招聘して意見交換をされたことは、千葉県で課題となっている外国人児童生徒等の増加といった本県ならではの課題に着目した良い会議となったと感じる。
- ・不登校児童生徒への対応としての「エデュオプちば」も引き続きテーマとして取り上げてほしい。

3 教育委員の活動と意見の施策への反映

(1) 活動の概要

- ・委員会会議のほか、委員勉強会や視察など、精力的に取り組まれていると思う。負担も多いことと思うが、今後も現場を知る活動を充実していただきたい。

(2) 具体的な施策への反映

- ・各教育施策に対して教育委員の方々から意見が数多く出されていて良い。これらの意見を事務局がどのように改善につなげていくかが肝要である。

ア 学力向上について

(ア) 全国学力・学習状況調査について

- ・主体的・対話的で深い学びを実現している学校や正答率が高い子供たちが、その後の高校や大学に向かってどのように繋がっているかを追跡調査しても良いのではないか。
- ・テスト結果をどう活用するかが重要である。毎年同じことを繰り返すだけではなく、結果を踏まえた改善策を考えていくことが大切。本調査への取組も改善が必要になってきているのではないか。
- ・継続して課題となっていることに対しては、重点的に研究をし、対応策を実践するよう取り組まれたい。
- ・本調査では、正答率の増減や他県との比較といった視点だけではなく、本県の強みと弱みをしっかり分析して今後の授業改善に生かしていかななくてはならない。
- ・子供の学力調査、結果分析、分析結果の活用、授業改善のような一貫した流れになっていないと感じる。

(イ) 公立高等学校入学者選抜の結果について

- ・学力検査の結果を分析し、指導のポイントとして授業改善や指導力向上を図っていることは良い取り組みの一つであると思う。
- ・英語科の得点分布の二極化については、要因を分析してほしい。

(ウ) 令和8年度以降の千葉県公立高等学校入学者選抜の改善点について

- ・調査書記載事項のさらなる精査を期待する。

- ・令和6年度で大きな問題となったのは、定員内不合格による訴訟のことだと認識している。令和8年度以降の入学者選抜では、定員内不合格への対応について他県の状況を調査研究して、方向性を検討されたい。
- ・特別な支援を必要とする生徒や外国人児童生徒等の受入体制の整備も必要である。

イ 第4期千葉県教育振興基本計画について

- ・第4期千葉県教育振興基本計画が掲げる基本理念を実現するための3つの基本目標、千葉県教育の10年度のあるべき姿が達成できるよう、今後の活動に期待する。
- ・有識者会議での専門家等の意見やパブリックコメントでの県民からの意見を施策や取組を推進していく際の参考にしてほしい。

ウ 問題行動、不登校等について

- ・エデュオプちばの活動は、多くの方から高い評価を聞いている。活動の拡大を図るとともに多様な学びの場の充実を図ってほしい。
- ・令和6年度にスクールカウンセラーの公立の小中高への全校配置が完了したことは素晴らしいこと。
- ・いじめ・問題行動等への対応として、スクールロイヤーの活用があるが、千葉県は相談等を対面で実施していることは全国的に見ても稀有で良い制度だと思う。

エ 学校における働き方改革について

- ・特に、部活動の指導で負担が大きい。地域クラブ等への展開でその負担は軽減され、生徒と向き合う時間が確保されることが重要である。
- ・一人当たりの業務量の軽減もさることながら、当事者の意識改革と社会の理解が不可欠であると考ええる。学校への支援のほか、学校現場で働く教職員の意見も聞きながら、社会へのアピールなども必要である。
- ・この働き方改革により、先生方のウェルビーイングの実現だけでなく、教わる子供たちのウェルビーイングも向上していかななくてはならない。
- ・公立学校の長所を活かして、好事例を横展開してほしい。

オ 特別支援教育の充実について

- ・今後も関係機関と連携して特別支援教育の充実に取り組まれない。

カ 体育・スポーツの推進について

- ・近年、夏季の気温の高さには驚くばかりである。熱中症や火傷などへの注意はもちろんであるが、環境の変化に対応した施設設備の見直しも考える必要がある。
- ・部活動の地域展開について国も方針を示し、各自治体も動き出そうとしている。学校部活動であれば無償であるが、地域クラブ等だと有償となり、参加できない家庭も出てくるのではないかと保護者の中でも懸念の声が多く上がっている。特に運動部活動で参加できない生徒が出れば、運動機会の喪失にもつながる。

キ 教職員の不祥事根絶について

- ・新卒の不祥事が次々と出てくる。教員は児童生徒に道徳を指導する側であり、より高い倫理観が求められる。
- ・なんとしてでも不祥事、特に性暴力等は早急に根絶しなければならない。今後も弛まぬ対策に取り組まれない。
- ・報道等で教員の不祥事を目にしない日はないと言っても過言ではない。千葉県でも採用選考の倍率が下がっている状況であり、教員の不祥事は優秀な人材の採用に悪影響であるので根絶に向け取り組まれない。
- ・千葉県教育委員会の「懲戒処分の指針：交通事故・交通法規違反関係」で想定している車両には自転車も含まれているのではないかと踏まえ、不祥事根絶に取り組んでほしい。
- ・教員個人のスマートフォンの教室持込の是非については県としても十分に考慮されたい。東京都の学校侵入事案に端を発して、校内の緊急連絡体制が再注目されている。

(3) 教育委員会の充実と発展のための研修・意見交換

ア 市町村教育委員会

- ・オンデマンドによる実施にも良さがあると思うが、対面の良さもあるのではないかと。

【第3章 教育委員会の所管施策】について

2 第3期千葉県教育振興基本計画の実施状況

(1) 千葉県教育の「あるべき姿」と各施策の実施指標

- ・第3期計画の5年間で3つの総括指標とも8割を超え、高いところで推移している。

【子供の姿】

- ・およそ9割の児童生徒が学校生活に満足し、保護者が学校運営に満足、概ね満足していることはすばらしいことである。しかし、それぞれ1割の方が他の回答をしていることを忘れてはならない。その要因を分析し、改善していく努力に期待する。

【家庭・地域の姿】【県民の姿】

- ・第3期計画期間は大部分がコロナ禍であった。コロナの影響でPTAや地域のイベントが休止となり、再開していないものもある。それまでは顔を合わせてできていたことができなくなり、挨拶や言葉を交わす機会が減った。

(2) 各施策・指標の達成状況

【施策1】

主体的に授業改善に取り組んだ学校の割合について

- ・指標が「よく行った」としているので達成率が低く見えるが、「行った」の回答を加えると9割を超える学校で授業改善は行われており安心した。授業改善に向けて、今後も継続し、努力されたい。
- ・「よく行った」との回答が3割に達しない。生徒指導や各校務分掌の対応など、多忙であることはわかるが、教員の本分として授業改善や教材研究はどんなに忙しくてもやらなくてはならない部分だと考える。

児童生徒のICT活用を指導する能力について

- ・学校間の格差があるのではないかと。ICTを活用した授業について、教育委員が視察をした方がよい。
- ・ICTに係る教員の指導力については、県として考えることと、市町村として考えることとしっかり仕分けをしたい。そうすることでICTを活用した授業の改善につながると考える。
- ・児童生徒のICT活用力も高くなってきており、単にICT活用力を高める指導ではなく、利用に当たって注意すべきことやマナーについても指導できるよう、努力されたい。
- ・大学の取組を参考にされたい。高校と大学との連携が十分に図れる分野である。

生徒の卒業段階における英語力について

- ・さらなる向上を期待する。
- ・小学校における英語の必修化も踏まえ、ALTの採用時には質の担保を考慮してほしい。

【施策2】

「道徳の授業で学んだことは、必要のあることだと思う」と考える児童生徒の割合について

- ・肯定的な回答が高い状態で維持できていることはすばらしいが、否定的な回答がある要因については継続して考えていかなければならない。

本県のいじめの認知件数に占める、いじめの解消しているものの割合について

- ・スクールカウンセラー等を活用し、早期発見・早期対応に取り組んでいると思う。ネットいじめに対しても、きめ細かに手を差し伸べてほしい。
- ・スクールカウンセラーの全学校種への配置ができたことはたいへん評価できる。今後の拡充に期待する。
- ・いじめの認知件数については、学校間の格差が大きい地域は特に注意しなくてはならない。格差がなくなるということは、当該地域にいじめの定義や早期発見の手立てが広がっていることになる。
- ・いじめに関する裁判例について、教育行政や学校管理職はアンテナを高くしておかなくてはならない。最新の情報を共有するための研修も必要になってくる。

【施策３】

小学校における新体力テスト（８種目８０点）の平均点について

- ・生活形態の変化により運動能力も変化していくものと考える。生涯の健康のためにも、経年変化を読み取り、原因を分析し、対応策をとることを願う。

【施策４】

個別の教育支援計画や個別の指導計画の活用について

- ・通常学級における特別支援は大きな教育課題の一つと考える。新しいことに取り組むことには、負担増が伴うが、スクラップ＆ビルドや、活用しやすいモデルの周知など、策を練りながら前向きに取り組んでほしい。

【施策５】

児童生徒の登下校時における交通事故死傷者数について

- ・登下校中の見守り活動に対して拒否感を示す親もいる。見守りを含めた学校の教育活動に無関心な親に対しての手立てを講じていく必要がある。

私立学校における教員一人当たりの生徒等の数

- ・私学に対しては経常経費が増額されてきていることは大変ありがたいことである。

【施策６】

組織的・継続的な研修を行っている学校の割合について

- ・組織的な研修としては、公立学校は近隣校同士で情報共有や相互参観を行える横のつながりといった良さがある。また、県や市町村など行政といった縦のつながりも生かしていったほしい。
- ・校長が２、３年で変わると、継続的な研修を行うことは難しいのではないかな。

県教育委員会が実施する調査等の縮減について

- ・実績値の 247 件であれば、毎日 1 件以上は県教委から調査等が学校に下りて行っているということになる。さらなる改善が必要ではないか。
- ・調査等の縮減については県教育委員会として良く努力されている。教員が子供と向き合う時間を削らない本取組を続けて、先生方を支えてほしい。

【施策 7】

多様なニーズに対応した教育の推進について

- ・地域連携アクティブスクールでの学び直しはとても良い。小中学校時代には学習に向き合えなかった子供も、丁寧な指導のおかげで自信を持って学べる仕組みだと考える。
- ・子供時代には、勉強・運動・遊びなどをして思いきり楽しんで過ごしてほしい。そのためにもヤングケアラーの支援を教育委員会と関係部局が連携して取り組んでほしい。

公立学校における学校内外の機関等で相談・指導等を受けていない不登校児童生徒の割合について

- ・不登校に対する認識が変化してきている中、適切な支援のため、今後とも様々な機関との連携、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等のさらなる拡充等に取り組まれない。
- ・不登校児童生徒のためのオンライン授業配信（エデュオプちば）など事業を拡充して取り組まれており感謝している。
- ・無理な登校を強いることはできないが、集団になじめない子供たちの「人間関係づくり」の力を育む支援をしてほしい。

【施策 8】

地域学校協働本部が設置された小中学校の割合について

- ・目標未達成ということではあるが、成果が上がっている。引き続きの支援を期待する。

コミュニティ・スクールを導入した学校の割合について

- ・目標未達成ということではあるが、成果が上がっている。引き続きの支援を期待する。
- ・学校と地域住民が力を合わせて学校運営に取り組んでいくことは良いことであるが、様々な人が学校に入ってくることを前提に、個人情報の適正な管理を徹底されたい。
- ・導入校が増えていることは評価できるが、一方で学校の負担は増えていると思う。中味の充実を図ってほしい。

【施策 9】

千葉県生涯学習情報提供システム「ちばりすネット」の情報登録件数について

- ・登録情報の精査、AI システムの活用が成果に現れている。

県立生涯学習施設（少年自然の家・青年の家、さわやかちば県民プラザ）の主催事業の参加者数について

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で数値が伸びないと評価しているが、コロナ禍でオンデマンドで

の研修の機会はかなり拡大した。この点を踏まえ、社会教育業務をさらに整理する視点が必要である
と考える。

- ・施設の老朽化が目立つところがある。対応を検討されたい。

【施策１０】

郷土と国を愛する心と世界を舞台に活躍する能力の育成について

- ・千葉で生まれ育った子供・若者が東京に流出している。千葉の歴史や文化を学び、千葉の良さを知り、
千葉で働く人を育てていかななくてはならない。

学校・社会教育施設等における出土文化財の活用件数について

- ・出土文化財を活用した授業は良いことだが、その中で千葉県には古墳が多くあった（前方後円墳数は
日本一）といったことを子供たちに学ばせてほしい。古墳が多いということで古代から千葉県は人々
が生活するに適した土地であった。われわれはその千葉で生まれ、育ったというプラスのイメージを
育てたい。